

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病害虫発生予察情報について

平成19年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成19年度農作物病害虫発生予報第2号

平成19年5月15日
徳島県

I. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生を認めていない(平年の発生圃場率は22.0%、発病度は0.6)。
- (2) 5月11日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生を認めていない(過去8年の同時期も未発生)。
- (2) 5月11日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生を助長しない。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1ヶ月、または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並~やや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は22.2%、発病度は0.4で、平年(40.4%、0.3)並の発生であった。
- (2) 5月11日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生を助長しない。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない，常発園や罹病生品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期：平年並(前年より早い)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生初確認は5月13日であった(平年：5月14日，前年：5月20日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は，IGR剤の場合，発生確認の10～15日後，有機リン剤の場合，35～40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度は「中」，発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(5月7日調査，無防除区)における発生量は，寄生葉率が20.0%，1葉当たり生息虫数が0.23頭で，ほぼ平年(7.3%，0.17頭)並の発生であった。
- (2) 5月前半の巡回調査では，発生圃場率は66.7%，寄生葉率は16.1%で，平年(47.6%，8.2%)よりやや多めの発生であった。
- (3) 5月11日発表の1ヶ月予報では，気温は，平年並または高い確率ともに40%と予想されており，やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には，充分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので，同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生程度は「少」，発生量は平年よりやや少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では，発生は認められなかった(平年同時期の生圃場率は12.8%，発病葉率は0.2%，発病果率は0.1%)。
- (2) 5月11日発表の1ヶ月予報では，気温は，平年並または高い確率ともに40%と予想されており，発生を助長しない。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し，初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」，発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では，発生は認められなかった(平年同時期の発生圃場率は47.0%，寄生新梢率は4.7%)。
- (2) 5月11日発表の1ヶ月予報では，気温は，平年並または高い確率ともに40%と予想されており，やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には，充分な量の薬液を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので，同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期：平年より早い(前年より早い)

発生程度は「少～中」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月28日)より早い4月15日に初誘殺を確認した。

(2) 5月11日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 田丁					上 板 田丁				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
5.1	4	28	1	256	74	51	0	1	292	44
5.2	9	172	1	731	192	26	72	0	456	85
5.3		19	1	1,078	115		25	0	643	83
5.4		895	4	436	145		143	1	167	45
5.5		378	6	292	147		27	0	197	50
5.6		475	3	712	187		32	0	78	34
6.1		475	1	102	109		17	0	12	29

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 田丁					上 板 田丁				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
5.1	9	22	0	44	26	7	0	2	153	22
5.2	12	144	0	205	87	32	75	1	199	45
5.3		2	1	685	58		0	2	273	37
5.4		262	0	315	51		59	2	69	18
5.5		201	0	276	93		17	1	110	22
5.6		208	1	242	80		1	0	69	24
6.1		73	0	40	29		4	0	15	51

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報、発生状況、防除法等をお知らせしています。